

本邦で初発未治療、初回寛解導入不応、あるいは第一寛解期で急性骨髄性白血病に対する同種造血細胞移植の治療を受けた患者様へのお知らせ

研究責任者： 東京大学医科学研究所 造血病態制御学分野
准教授・小沼貴晶

東京大学医科学研究所 造血病態制御学分野では、患者様の情報を使わせていただき、以下の研究を行います。下記2. に該当する患者様で、情報が本研究に用いられることを希望されない方は、下記7. の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありませんのでご安心ください。なお、お申し出の時点において、すでに情報を用いた研究結果が論文等で公表されていた場合には、その研究結果については破棄できないことをご了承ください。

1. **研究課題名：** 初発未治療急性骨髄性白血病に対する即時同種造血細胞移植の成績と予後因子に関する研究

2. 研究の対象となる方と用いる情報：

日本造血細胞移植学会一元化登録事業データから、2000年1月～2024年12月に日本で同種造血細胞移植の治療を受けた初発未治療、初回寛解導入不応、あるいは第一寛解期の急性骨髄性白血病の方の以下の情報を利用させていただきます。

情報：診断名、年齢、性別、疾患や移植の情報、移植合併症や移植転機 等

3. 研究の目的と方法：

新規発症の急性骨髄性白血病では、寛解導入を目的とした化学療法を施行後に、同種造血細胞移植に進むのが一般的とされていますが、移植前の化学療法の臨床の有効性を証明する確固たるデータは存在しません。初発未治療急性骨髄性白血病に対する直接移植は、これまで骨髓異形成症候群由来の急性骨髄性白血病などを中心に少数例の報告に留まっており、全容は解明されていません。本研究により、どのような患者背景において直接移植が最大の利益をもたらすか、また逆にどのような症例でリスクが高まるかという予後因子が特定できれば、症例ごとの治療戦略の最適化が可能となります。不必要な化学療法に伴う毒性・臓器障害や治療遅延の回避は、移植医療全体の安全性を高める。本研究の成果は、本邦における同種造血細胞移植の成績向上に大きく寄与することが期待できます。

4. 個人情報の取扱い：

各医療機関での日本造血細胞移植学会/日本造血細胞移植データセンターの一元管理データベースの登録において、情報には患者様を直ちに特定できる情報はつけずに登録されています。当機関では、研究用IDと患者様を特定できる情報を記載した対応表は受領していません。参加拒否のお申し出があった場合、日本造血細胞移植学会/日本造血細胞移植データセンターにおいてオプトアウト対応を行います。

5. 研究期間等：

研究期間:2026 年 9 月 16 日(所長許可日)～ 2028年3月31日

6. 研究実施体制:

研究責任者 東京大学医科学研究所 造血病態制御学分野 准教授 小沼貴晶

7. ご質問・ご相談、ご辞退のお申し出に関する連絡先

本研究に関するご質問・ご相談、または、情報が本研究に用いられることを希望されない場合には下記までご連絡下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で研究計画書及び関連資料を閲覧出来ますのでお申し出下さい。

<連絡先>

担当者:小沼貴晶 東京大学以下が研究所 造血病態制御学分野

電話番号:03-5449-5429

メールアドレス:tkonuma@ims.u-tokyo.ac.jp

【東京大学医科学研究所】

研究所長名:岩間厚志

住所:東京都港区白金台 4-6-1

ホームページ: <https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/>

研究倫理支援室: <https://ore-imsut.jp/>

